

2/20(土) まいど! 倫理号です。残暑お見舞い申し上げます、神国出雲は家庭愛和の国です。さうに磨きかけたいものです。

幸せ屋ぶ 一鳥

今週の

2022. 8. 20~8. 26

倫理

8月のテーマ | 家庭愛和

1295号

日本人が「大切にしているもの」に関する様々なアンケートやランキングを目にする。「家庭・家族」が上位にランクしていることが多いようです。

特に自然災害や、昨今のコロナ禍といった、不慮の出来事に見舞われたことよって、家庭や家族の重要性を実感した人は多いのではないのでしょうか。

身近で支えになつてくれる家族の存在の有難みや、家庭が安らぎの場となることで鋭気が養われ、困難に立ち向かう基盤となるなど、多くの人が家庭や家族によって救われてきた側面があると思われまふ。

一般社団法人倫理研究所では、小学生を対象に「しきなみ子供短歌コンクール」を開催しております。日本の伝統文化の継承に貢献することを理念に掲げ、毎年全国各地から約六万首の短歌が寄せられます。どれも味わい深い短歌ばかりで、子供たちの素直な心が表現されています。

その短歌を読み込んでいくと、実に多くの子が家庭や家族のことを歌っていることが分かります。ここで三首紹介します。

お姉ちゃん とまりにいつて いないから
今日の夜は ママひとりじめ (小二・女子)

家出して 五分で気付く 家の良さ やるせないまま 家路にもどる (小五・女子)

病院に 産声ひびき 父がだく 新しい命
みんなで見守る (小六・男子)

日本には古くから短歌(和歌)の文化があり、貴族から庶民まで自由に詠んできました。日本最古の短歌は、家庭を築いてい



家庭愛和が良い国を築く

くことが詠まれた歌だといわれています。

**八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣
作る その八重垣を**

作者は日本神話に登場する、須佐之男命(すさのおのみこと)です。神代の昔、高天原で乱暴狼藉を繰り返した須佐之男命は、姉の天照大御神に追放処分され、出雲の国の肥の河ほとり、鳥髪に降りてきました。すると年老いた男女と若い娘が泣いていました。事情を聞くと、一つの身に八つの頭と八つの尾がある八岐大蛇(やまたのおろち)に、毎年娘が食べられ、今年もその時がやってきて泣いていたのです。

そこで須佐之男命は八岐大蛇を退治する代わりに、娘を嫁にもらい受ける提案をします。そして八岐大蛇に酒を飲ませ、酔ったところを退治し娘の櫛名田比賣(くしなだひめ)を嫁にもらうことができたのです。

そして須佐之男命と櫛名田比賣は夫婦となり、家庭を築いていく際に詠まれた歌が先に紹介した歌なのです。「雲が幾重にも湧き出る出雲で、妻との生活のために新居に垣根を幾重も造ろう」という意味です。

日本最古の短歌が、夫婦となり家庭を築いていくことが詠まれた歌なのです。家庭が元となり、地域社会が形成され、国が成り立ってきた日本の歴史が、この短歌からも読み取ることができます。

改めて、家庭愛和の実践に磨きをかけ、それぞれの職場や地域社会の発展に努め、子孫に誇れる、より良い国を築いていきたいものです。